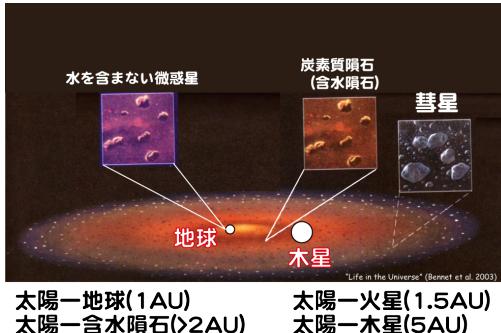


## 水(海)の起源 二次大気モデル(衝突脱ガス)



成分	濃度 (bars)	存在比 (%)
CO <sub>2</sub>	86.4	96
N <sub>2</sub>	3.2	3.5
H <sub>2</sub> O	0.009	1×10 <sup>-2</sup>
Ar	0.0063	7×10 <sup>-3</sup>

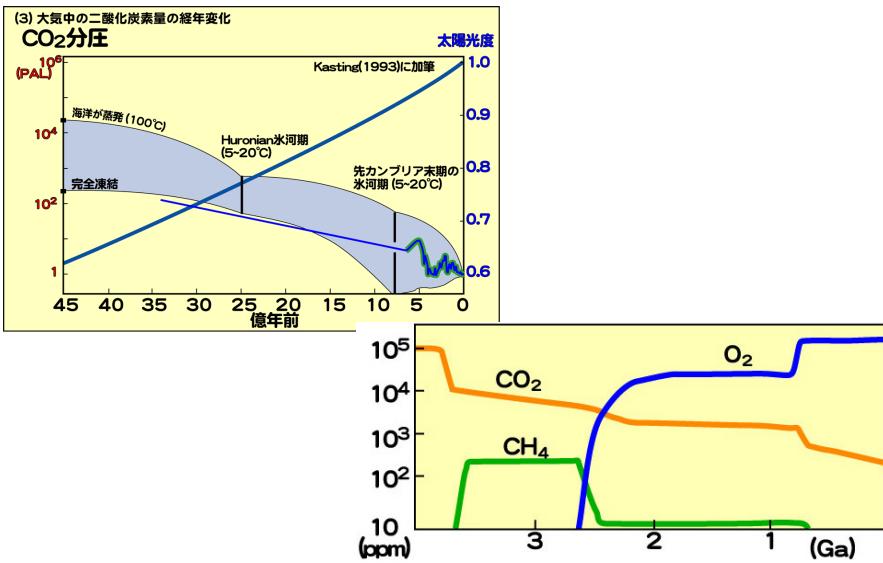
成分	濃度 (bars)	存在比 (%)
N <sub>2</sub>	78	77
O <sub>2</sub>	21	21
H <sub>2</sub> O	0.01	1
Ar	0.0094	0.93
CO <sub>2</sub>	3.55×10 <sup>-4</sup>	3.5×10 <sup>-4</sup>

成分	濃度 (bars)	存在比 (%)
CO <sub>2</sub>	0.0062	95
N <sub>2</sub>	0.00018	2.7
Ar	0.00010	1.6
H <sub>2</sub> O	3.9×10 <sup>-7</sup>	6×10 <sup>-3</sup>
CO <sub>2</sub> , O <sub>2</sub> , CH <sub>4</sub>		<1

一次大気が見直されている。  
マグマオーシャンと一次大気

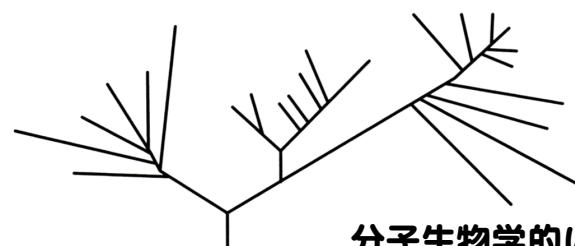
## 惑星の大気-CO<sub>2</sub>の減少と気温-



## 生命とは

- (1) 細胞膜の存在  
→半開放的な境界膜に包まれている
- (2) 自己複製／自己増殖
- (3) 自己維持機能をもつ(代謝をする)
- (4) 進化をする

A 真正細菌 古細菌 真核生物



分子生物学的に3つのドメイン

# 生命の起源—化学進化—

化学進化の進み方

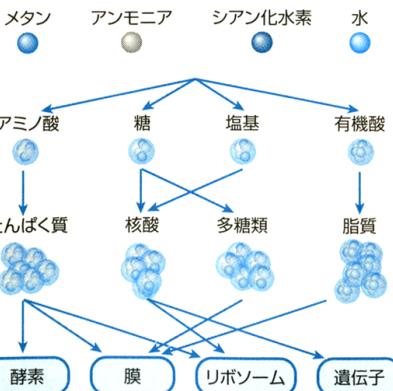
原始地球上の  
出発材料

初期の有機物

複雑な高分子

原始生物細胞での役割

活躍する分子

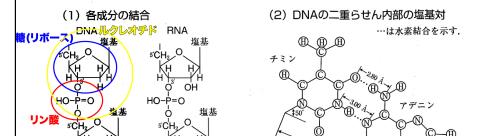


メタン、アンモニア、シアノ化水素、水から、アミノ酸、糖、塩基、有機酸が合成される。これらからたんぱく質、核酸、多糖類、脂質がつくれられ、酵素、膜、リボソーム、遺伝子といった生命体をつくる物質になる。

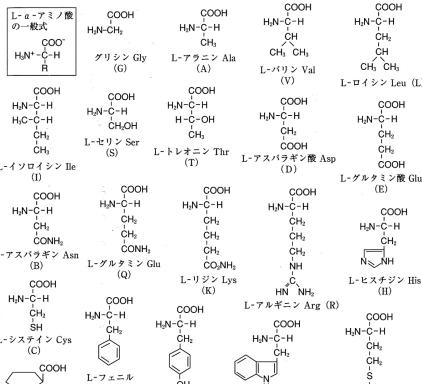
## 無機物質→生命へ

# 生命の原材料物質—核酸—

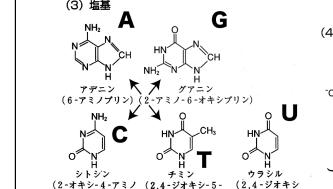
1. 核酸, DNA, RNA, ヌクレオチド



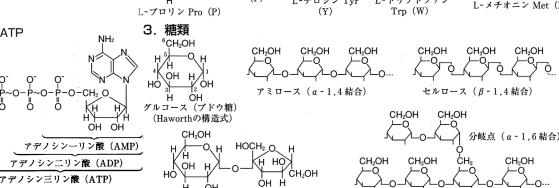
2. アミノ酸



(3) 塩基



(4) ATP



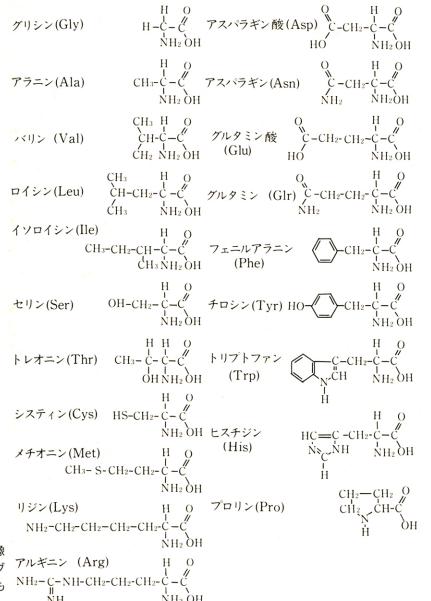
# 生命の原材料物質—アミノ酸—

生命はたった20種のアミノ酸しか使っていない

## 生命のアミノ酸はすべて左旋性

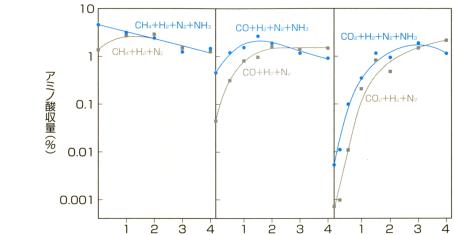
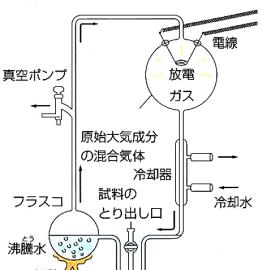


図3.1) アラニンの鏡像異性体。鏡像異性体とは、同等な分子をもち、互いに鏡像関係にある分子のことである。アラニンはタンパク質を構成するすべてのアミノ酸(グリシンを除く)と同様、自然界では、左手型のキラリティのもの(図で左側に描いたもの)しか存在しない。



# アミノ酸の合成

図2 ミラーの実験

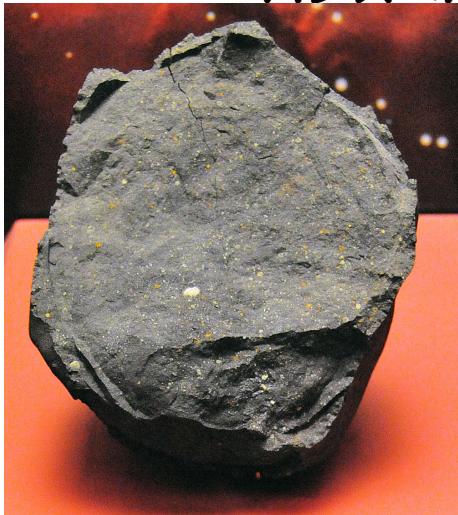


窒素0.1316気圧に、メタン、一酸化炭素、あるいは二酸化炭素を0.1316気圧ずつ混合した気体に、さまざまな割合で水素を加えた気体を準備し、ミラーの行った実験で生成したアミノ酸の収量。縦軸は実験前の炭素量に対するアミノ酸中の炭素の割合。いすゞの場合水素の濃度が低くなると収量が高くなる。Schopf "Major Events in the History of Life" (1992)に基づく。

水素を含む様々な還元的な条件でアミノ酸が形成される

図3 原始地球上での化学進化のエネルギー源

# 生命原材料物質は宇宙起源? 一パンスペルミア-



マーチソン隕石

アミノ酸	マーチソン隕石	放電
グリシン	○○○○	○○○○
アラニン	○○○○	○○○○
$\alpha$ -アミノ-n-酪酸	○○○	○○○○
$\alpha$ -アミノ酪酸	○○○○	○○
バリン	○○○	○○
ノルバリン	○○○	○○○
イソバリン	○○	○○
プロリン	○○○	○○
ビペコリン酸	○	×
アスパラギン酸	○○○	○○○○
グルタミン酸	○○○	○○
$\beta$ -アラニン	○○	○○
$\beta$ -アミノ-n-酪酸	○	○○
$\beta$ -アミノイソ酪酸	○	○○
$\gamma$ -アミノ酪酸	○	○○
サルコシン	○○	○○○○
N-エチルグリシン	○○	○○○○
N-メチルアラニン	○○	○○

## 有機物から生命へ

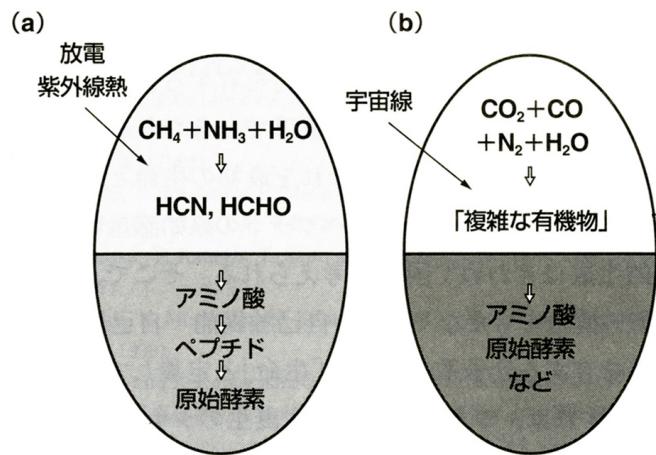
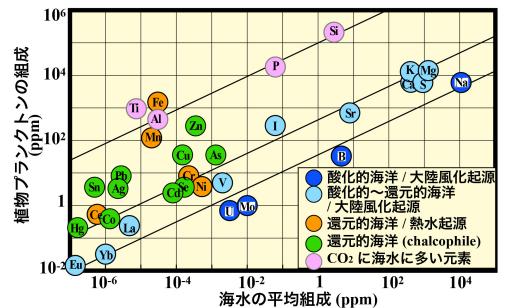
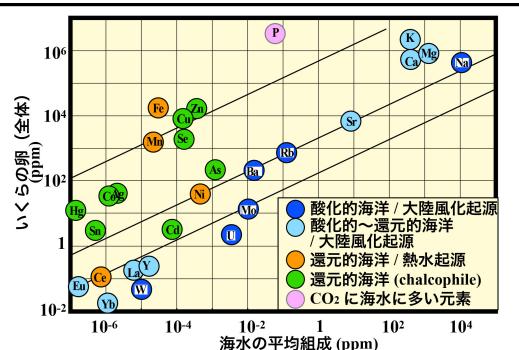


図2.3 生体分子の前生物的生成のシナリオ。(a)古典的シナリオ、(b)がらくたワールドのシナリオ。

## 生物の化学組成と海水組成の比較

### (1) リンの問題

### (2) カリウム



## 最初の海の組成

- ①還元的②低pH(極酸性)ClやFなどのハロゲン
- ③その他他の元素は?



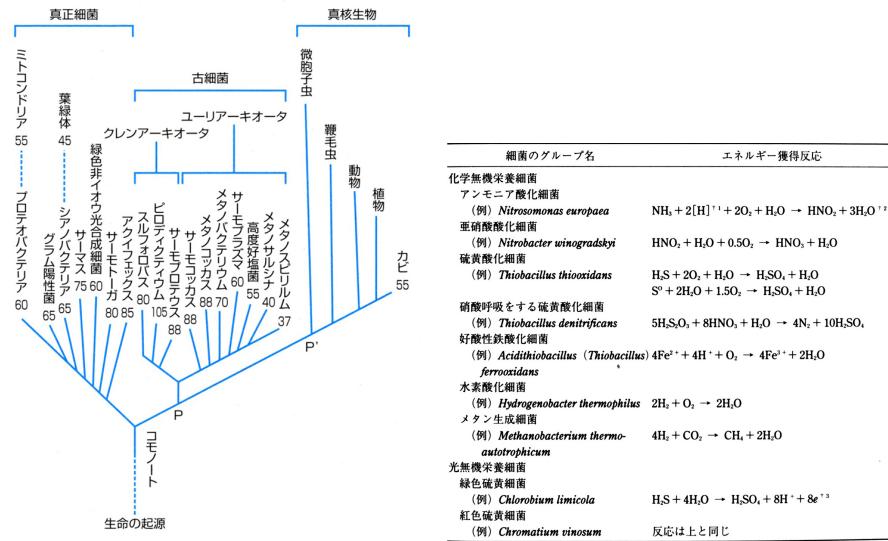
生命誕生の場(海底熱水?)



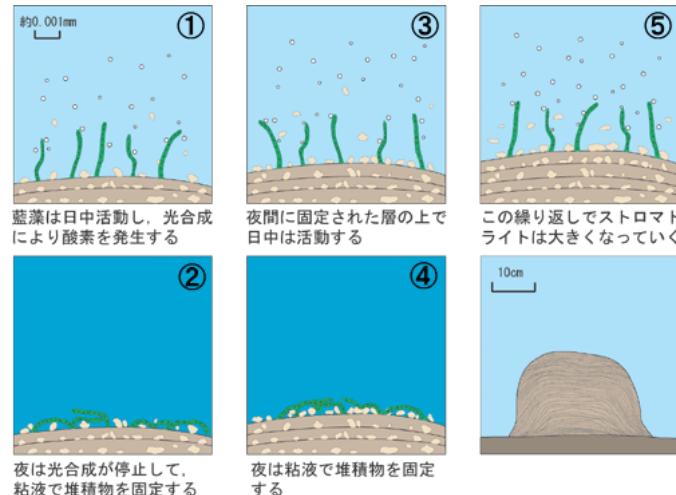
生命誕生の場(陸上の温泉など)

## 40~35億年前—深海から—

図3-17 原核生物の系統樹と生息温度

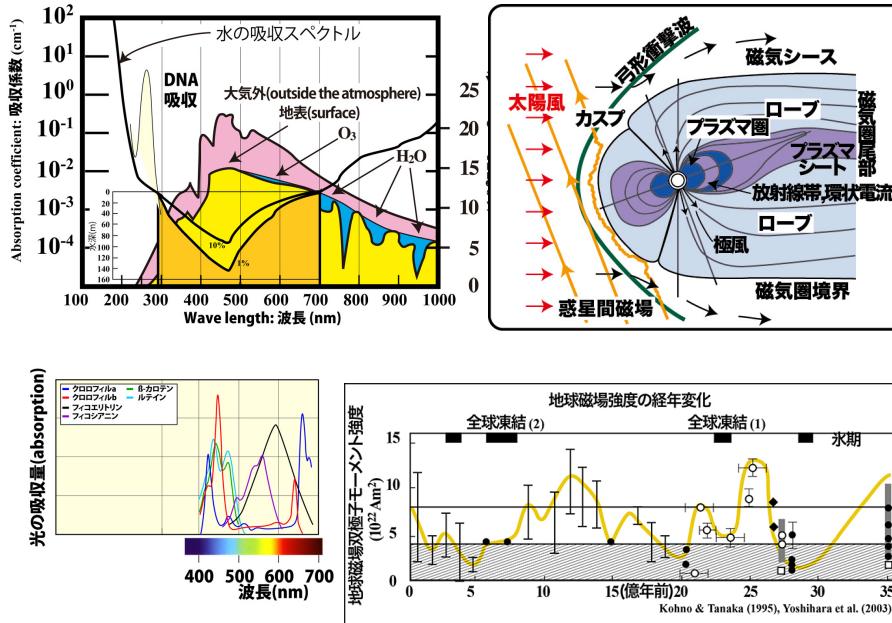


## ストロマトライトの成長

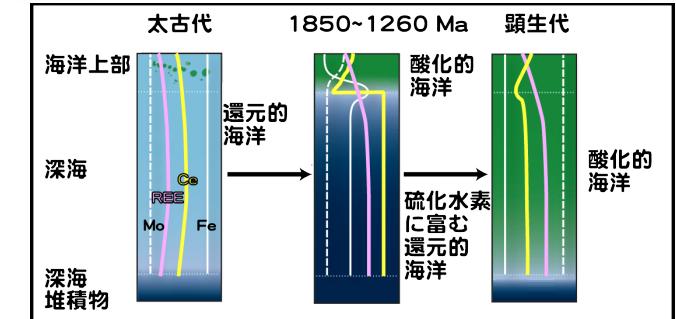
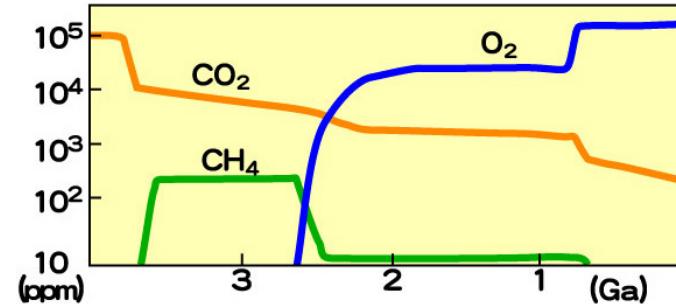


## 酸素発生型光合成の開始と大気酸素の増加

### (4) 植物プランクトンと光合成



## 大気・海洋の酸素濃度の上昇



## 縞状鉄鉱層

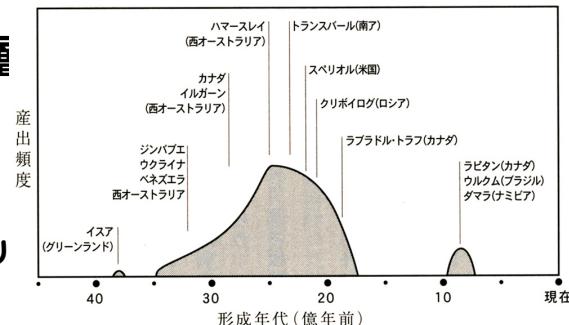
25億年前

海水中の $\text{Fe}^{2+}$   
が酸化されて、  
 $\text{Fe}^{3+}$ になり、  
沈殿( $\text{Fe}_2\text{O}_3$ ,  $\text{FeO(OH)}$ )

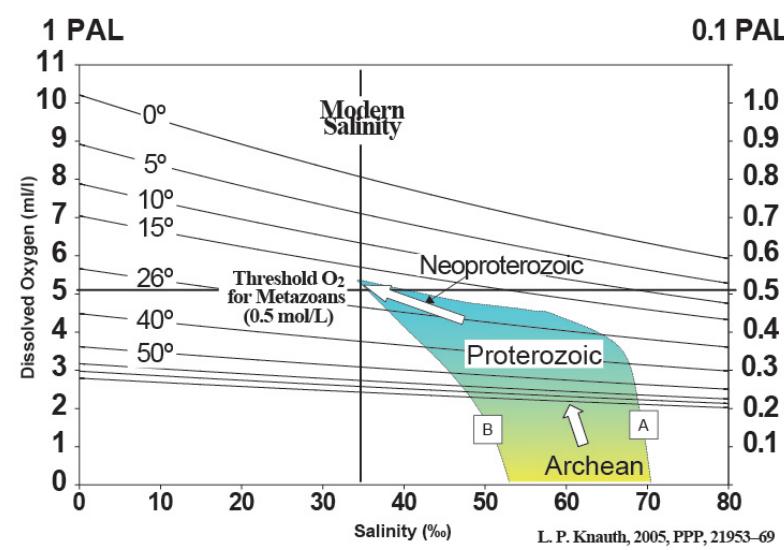
## 縞状マンガン層

23億年前

海水中の $\text{Mn}^{2+}$   
が酸化されて、  
 $\text{Mn}^{3+}$ または $\text{Mn}^{4+}$ になり  
沈殿

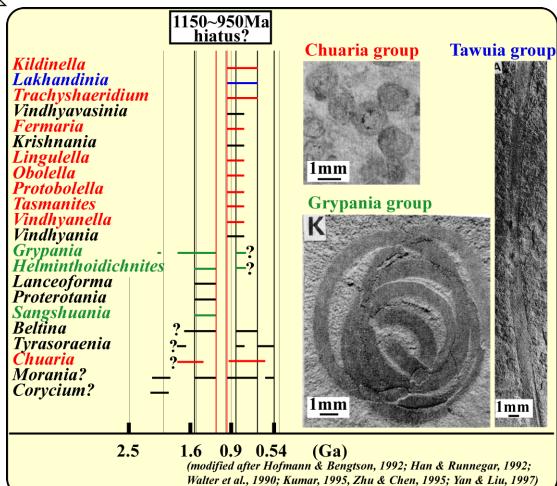
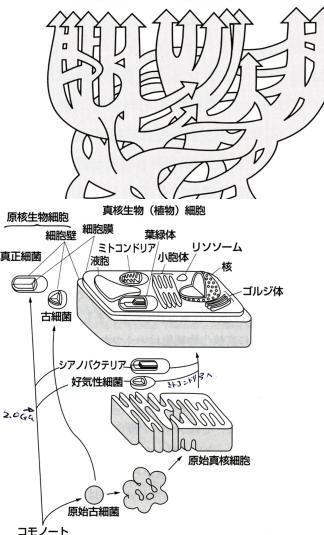


## 古海水の塩濃度組成の変化

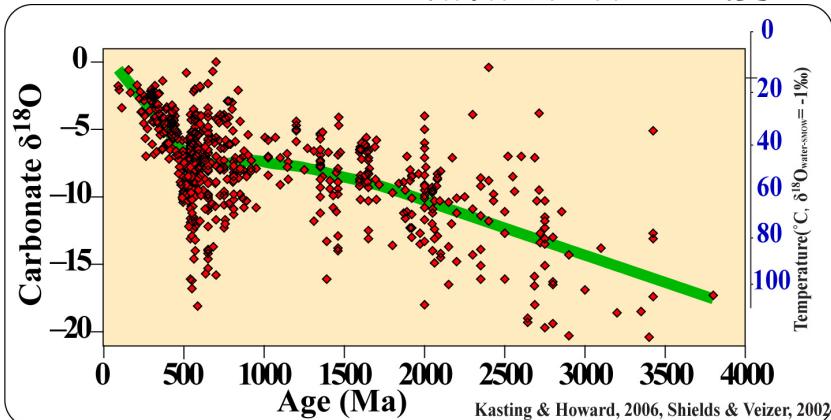


## 真核生物—DNAが核に保管 細胞内共生と水平進化

C 真正細菌 古細菌 真核生物

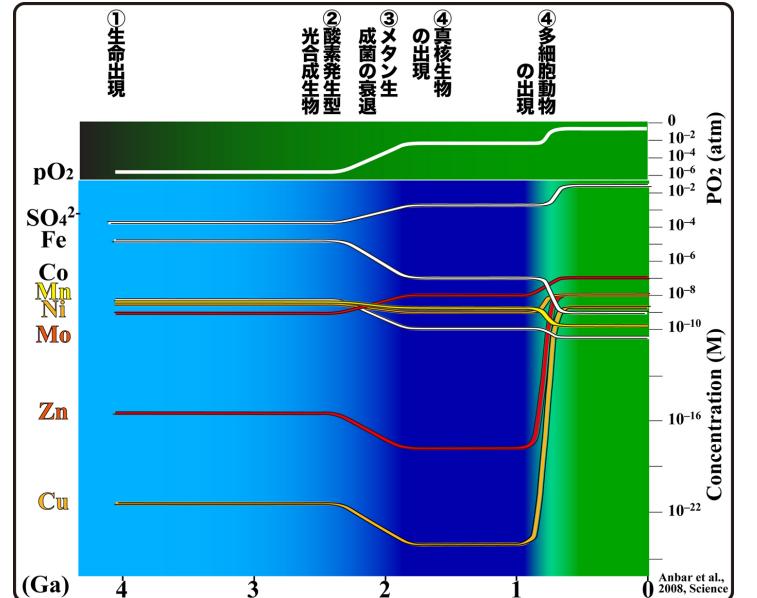


## Carbonateの酸素同位体と温度



- (0) 昔は海水温が高かった?
- (1) 海水の酸素同位体の経年変化?  
(Veizer et al., 1999; Wallmann, 2001)  
⇒海洋地殻の酸素同位体(Muehlenbachs 1998など)
- (2) 炭酸塩の二次的な酸素同位体移動

## 海水の組成と生命進化(生命進化と海洋組成変化の関連)

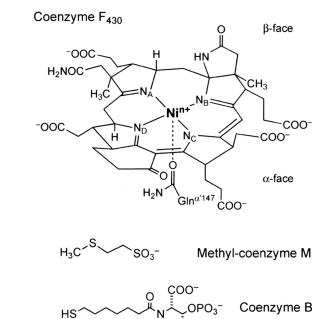
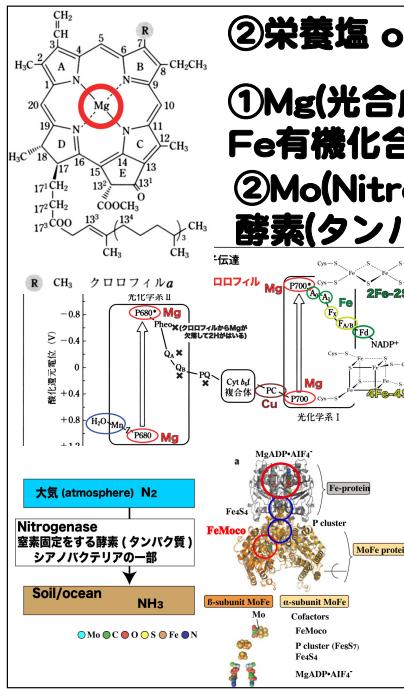


## ②栄養塩 or 生命必須元素、無機金属元素

①Mg(光合成色素、クロロフィル)とFe有機化合物

②Mo(Nitrogenase, 窒素固定に使われる酵素(タンパク質))

③Ni(メタン生成菌やメタン酸化菌(タンパク質))



## 全地球凍結後の生命の爆発的進化



## カンブリア紀に現世の生物の祖先がほぼ出揃う —カンブリア大爆発, Cambrian explosion—

